

平成28年度 第2回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：平成28年9月2日（金）午後3時から午後4時50分まで

【開催場所】：教育委員会棟2階会議室

【出席者】：審議会委員9名

阪根委員、朝田委員、黒濱委員、先田委員、佐藤委員、藤田委員、山本委員、湯地委員、米崎委員

鳴門市6名

大林教育次長、天満教育総務課長、竹下学校教育課長、事務局3名

傍聴者 なし

○次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 審議会委員の自己紹介（前回欠席委員）
- 4 議事
(1) 「鳴門の学校づくり計画」の基本的事項について
(2) 計画策定にあたっての考え方、基本方針（案）について
- 5 その他
- 6 閉会

○会議資料

【資料1】 鳴門市教育振興計画委員一覧

【資料2】 平成28年度第1回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【資料3】 鳴門の学校づくり計画策定スケジュール

【資料4】 「鳴門の学校づくり計画」の基本的事項

【資料5】 策定にあたっての考え方、基本方針（案）

○会議概要

- 1 事務局が開会を宣言した。
- 2 阪根会長があいさつを行った。
- 3 前回欠席の審議会委員が自己紹介を行った。

4 議事

会 長

まず基本的事項について説明するが、第1回目の会議でも話したように、統廃合ありきで議論したり、鳴門市の教育のあり方についての大幅な改定を審議したりするのではなく、これからどういう学校づくりをしていけばいいか、その計画の下地や振興計画の実施の動きなどを審議していく会だということを認識しておいていただければありがたい。

議事（1）「鳴門の学校づくり計画」の基本的事項について

事務局より、資料4に基づき説明した。

会 長

少子化というのが顕著になってきている中、第二期鳴門市教育振興計画の実施計画という形で、今後の学校はどうあるべきかということについて皆さんの意見をお聞きするというのが、この審議会の重点であると思う。

基本的事項について、皆さんのお考えや感想を伺ってから、審議を前に進めたいと思う。

F 委員

市の動きを見ていると、色んな所で統合についての動きがあるのだと感じる。現場の状況も聞いていきながら、今後の議論に繋げていきたいと思う。

K 委員

一中を残してほぼ耐震化が進んでいるということで、安心して学校が利用できるというところだが、統廃合については、親からしたらとても気になる場所であるので、十分説明しながら、進めていかなければならないものだと思う。

E 委員

保護者としては、クラス数は多い方がありがたい。複式学級が取り入れられている小規模校もある中で、複数クラスを望む保護者の声が周りにも多いので複雑な気持ちがある。子どもたちの教育環境を整えることが一番なので、そういうことを思いながら、資料を読んでいた。

G 委員

里浦の恵美寿や栗津の方の子はお金を払って地域バスに乗って学校に行っていると思うが、スクールバスは無償で乗れるのか。

会 長

香川県の坂出の方の中学校のスクールバスは個人負担だが、統廃合に係る場合、スクールバスについては無償であることが多い。

教育次長

スクールバスについては、保護者の経済的な負担を考慮して無償としている。里浦小学校の場合は、かつての学校統合の際に路線バスを残すことが統合の条件であったため、今現在も有償という形で路線バスが残っている。

I 委員

資料4の6ページで、共通学区を設置したという成果があるが、共通学区を設置したことでどのような変化があったのか。また、鳴門中学校区の小中一貫について、新しく義務教育学校という制度も出来たりしている中で、どういう方向性で進めていくのか。

学校教育課長

平成21年4月に新たに設けた共通学区について、7年間の成果という形でのデータを次回審議会でお示ししたい。

また、鳴門中学校区の小中一貫教育について、今後どのような形で進めていくかは、鳴門教育大学との連携も含めて、検討している状況である。瀬戸中学校区で先行してモデル的に小中一貫教育の取組を進めているところであり、今後、鳴門中学校区、瀬戸中学校区それぞれの地域の特色も踏まえた小中一貫教育推進方針を立てていきたい。

義務教育学校については、施設の改修の時期と合わせて、小中一貫の進んだ形として検討を行っていきたい。

教育次長

新しい学校づくり計画の中では、小中一貫教育校と義務教育学校の違いというものを考慮して、どのように記述していくかということをご検討いただきたいと思う。次回審議会では、小中一貫教育校と義務教育学校の違いを資料としてお示ししたい。

I 委員

一口に小中一貫と言っても、施設一体型であったり施設分離型であったりと様々な形態もあるので、今後将来を見据えていく中で、大いにこの場でも検討する必要があると思う。

会 長

小中連携は小学校、中学校がそれぞれ独立してありながら、お互いに協力できる部分は協力してやろうということ、小中一貫は、小学校から中学校への一つの大きな流れを作っていくこと、義務教育学校となると、場合によっては6年・3年の編成を変えて1学年から9学年までという制度的なものも含めた一体型の学校、というイメージをしていただければ、分かりやすいかと思う。

A 委員

資料4の1ページに第二期教育振興計画が基本構想10年、基本計画をおおむね5年で見直しとあることに関して、今後の統合の計画としては、まず5年の基本計画の中で検討し、さらに次の5年で基本計画の見直しに合わせて、統合の条件の見直しを行うのか、そのタイミングについてお聞きしたい。

教育次長

現行計画については、平成20年度から28年度までの9年間の計画とし、その9年間で短期、中期、長期という切り分けをした。第二期の教育振興計画も第一期同様に10年の計画期間としているので、学校づくり計画も期間としては10年と考えている。その中でまた、短期、中期、長期といった形で期間を切り分けするかについてはご検討いただけたらと思う。

A 委員

幼稚園は小学校との併設を基本とする、とあるので、小学校に準ずるという理解でいいか。

教育次長

現在、子ども子育て支援新制度が実施されたことに伴い就学前教育のあり方が大きく変わってきている。今回策定する学校づくり計画も鳴門市全体の就学前教育、幼稚園教育をどうするかという視点に立ったものになると思う。

H 委員

スクールバスの時間の関係で学校の教育活動、部活動が制約されるような状況はないか。

会 長

私の勤めていた学校での経験から言うと、4月当初に年間の学校運営計画とバス運行計画を決めてしまうので、ある程度の制約は生じる。その点、瀬戸中学校の方はどうか。

教育総務課長

瀬戸中学校のスクールバスについては、朝1便、帰りは授業が終わって16時頃に中学校を出発する便と部活便の2便が基本で、毎月学校と協議して時刻表を作っている。それでも、1ヶ月のうちかなりの回数、変更が出てくるが、その都度対応できるところは、対応している。瀬戸中学校のスクールバス運行を始めて3年目になるが、基本的には、子どもの通学負担を増やさないようにするというのを念頭に柔軟に対応できるようにしている。

会 長

非常に細かい対応をされていて素晴らしい。ただし、スクールバスも今後続けていくなかで財政負担や便数など問題が出てくるのだろうと思う。

B 委員

徳島県がチェーンスクール、パッケージスクールといった取組を進めているが、鳴門市も各中学校区で保幼小中がどのように連携し、そこに地域がどう関わっていくか考えることが、子どもの教育をしていくうえで大事になってくると思う。また、学校づくりを考えていくうえで、街づくりという観点からも考えないとこれからの少子化の進行は避けて通れない状況になると思う。

議事（２）計画策定にあたっての考え方、基本方針（案）について

事務局より、資料５に基づき説明した。

会 長

事務局から一つの基本方針案を出していただいた。基本的には、複式学級の解消、現存５中学校の存続、小中一貫教育の推進といったところか。

A 委員

この基本方針は表に出て、広く市民に知ってもらうための資料なのか。だとすると、基本方針④の公立幼稚園の再編について、それまで言及がないにもかかわらず、基本方針で唐突に出てきた印象がある。一般の方が見たとき、分かりやすい書きぶりとなるよう前提となる部分の作文が必要ではないか。

会 長

このあたりの話は保育所とは切り離して考えることはできないと思うが、子どもいきいき課としてはどう考えるか。

黒濱委員（子どもいきいき課長）

鳴門市の場合は、幼小併設という特色があるため、小学校の再編を検討する際に必然的に幼稚園もという歴史的な経緯があったと思う。国が子ども子育て支援新制度を打ち出してきた中で、幼保の部分を検討する必要が出てきた。今後の議論で、保育所側からの情報についてもまたお示しできればと考えている。

教育次長

公立幼稚園の再編に係る基本方針については、もう少し前提となる部分の説明に厚みを持たせ、丁寧な資料となるようにさせていただけたらと思う。

K 委員

複式学級では、学力の向上という点で懸念される部分があるため、複式学級の解消を基本方針として掲げるのは概ね理解できる。

また、学校規模に関しても、学年１クラスより２クラスあったほうが、子ども同士の人間関係の面で配慮がしやすいという点である程度の規模は必要とする考えに同意する。

I 委員

複式学級では、基礎基本を自分でどんどんしていくような授業はやりやすいが、現在求められているような思考力、表現力、判断力といった新しい学力を養うには難しい面もある。複式学級の解消という方向性については、現場の人間としては、ありがたい話である。また、学年１クラスよりもクラス替えができるような規模が望ましいとする国の方針も納得できる。

H 委員

超小規模校での勤務経験があるが、人員配置に関してバックアップがあれば、小規模校なりの良さを生かした教育をすることは可能で、それは実際に経験している。逆に大規模校の良さも経験している。小規模校、複式学級のデメリットとされていることをカバーできるなら、複式学級で続けていくことも可能かと思う。

会 長

皆さんの意見を聞いていて、適正規模の考え方の部分で、各学年ともクラス替えのできる複数学級がある学校規模であること、の前提条件が何かというのが抜けているなと感じた。例えば学力向上や生徒指導の観点から、各学年ともクラス替えのできる複数学級がある学校規模であること、となると説得力は増す。説得力を持たせるために前提条件、何らかの前置きは必要であると思う。適正規模と適正配置の考え方の関係で、「1つの中学校区に2つの小学校があること」が適正配置の考え方の原則としてあるが、ただし、「複式学級編成となる場合は適正規模の考え方を優先する」ことの意味を考えるとしたら、なぜ適正規模の考え方を優先するのかということ、きちんと押さえておかないと、市民の納得は得られないだろうと感じた。なぜ、クラス替えのできる複数学級がある学校規模であること、が必要かということ、次回示していただきたい。

B 委員

鳴門東小、瀬戸小、堀江南小の複式学級の状況は。

事務局

瀬戸小について、1年生1名、2年生0名なので、1年生は児童1名、担任1名の1学級、3、4年生が複式、5、6年生が複式。

B 委員

教頭が担任しているのか。

事務局

支援学級が1学級あり、全校でクラス数は4学級となり、教頭も担任している。

教育次長

資料としてお示しした方が分かりやすいかと思うので次回、鳴門東、瀬戸、堀江南の現状について、お示ししたい。

B 委員

複式学級のある3校については、地域住民や保護者が、現時点で今後の見通しも含めてどういう意向をもっているか把握しておく必要があると思う。

事務局

鳴門東小学校と堀江南小学校の状況についても簡単に説明しておく。

今年度、鳴門東小学校は本来2、3年生、4、5年生が複式学級になる編成だが、教頭が担任に入ること、加配が1人入って複式を解消している。来年度は、1年生から6年生まで全学年で複式になる見込み。

会 長

複式学級となる編成基準は。

教育次長

1年生を含む場合8名、1年生を含まず構成する場合は16名。

事務局

今年度、堀江南小学校は本来4，5年生が複式になる編成だが、教頭が担任に入ることによって複式を解消している。今後も教頭が担任に入り、複式解消加配が入ることで、単式学級を維持できる状況にある。

会 長

3校については、このような状況だということを知っておいていただけたらと思う。今回の再編を考えるにあたって、子ども第一で考える複式学級の問題、子ども第一で考える単式学級の問題といったところに落とし込んで、保育園、幼稚園との関わりを含めたイメージで考えていただければと思う。ただ、幼小併設というのは、鳴門の一つの持ち味なので、ここに手を入れていくというのは難しいものだと思う。

E 委員

学校の再編が進んでいくと、将来的には幼稚園や小学校の教師の数も少なくなっていくものなのか。教師を目指す子たちの採用枠が少なくなっていくのか。

G 委員

現在、鳴門東小学校の体育館を建て替えていると思うが、聞くと学校自体は複式学級で統合を検討する段階にあると言う。その状況でも体育館を建て替えるのだなということも思った。統合で使われなくなった校舎や体育館などの有効活用について、具体的な案が出せるものは出してもらえたらと思う。

F 委員

複式の学級の中でも、同じ1時間の授業時間の中でも質の高い教育をどのように行っていくかということが大事になってくると思う。

教育次長

E 委員、G 委員のご質問、ご意見にお答えする。幼稚園の教諭の採用については、今年度も4名募集しており、今後も幼稚園教育を行っている限りは、年次計画的に任用をしていく方向でいる。

鳴門東小学校の体育館については、子どもが在学して、体育館も使用しているというのであれば、当然耐震化をしなければならず、鳴門東小学校の体育館は設計上耐震補強をするということができなかつたので、改築ということになった。鳴門東小学校の体育館はこれまでも地域の方にもよく使っていた。これからも地域の中のスポーツ活動や体作りということに寄与するため、また地域の避難所としての機能も併せ持つ形での設計にして、体育館を残していくこととしている。

会 長

施設については、色々な再利用の仕方がある。高松の例で言えば、総合教育センターとして校舎を再利用している小学校もある。すでに学校ではなくなっているが、校舎に先生方が集まれば、不思議とやる気が出てくるといった現象も起こっている。みなさんにも色々な形でまた使っていただければと思う。

5 その他として、事務局より次回の開催日時については、調整し決まり次第連絡する旨報告した。

6 閉会

以上